

2018 年卒
Vol.8

7月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2018 学生モニター調査結果 (2017年7月発行)

2018年卒業予定者の採用面接が6月1日に正式に解禁されてから1カ月が経ち、就職採用戦線は大きな山を越えた。7月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は8割を超えていたことがわかった。

1. 7月1日現在の内定状況

- 内定率は83.2%。前年同期実績(79.8%)を3.4ポイント上回る
- 就職活動を終了したのは全体の66.1%。継続者は33.8%

2. エントリー状況、セミナー参加、選考試験の受験状況

- エントリー社数の平均は39.6社。前年(45.8社)より6.2社少ない
- 筆記試験11.3社、面接試験8.9社。いずれも前年同期より微減

3. 就活継続者の今後の動向

- 選考中の企業は平均2.2社。今後の方針は「絞って活動する」が過半数(53.2%)
- 今後のエントリー予定社数は平均2.9社。前年同期(5.7社)の半数にとどまる

4. 就活継続者が就活を終了したいと思う時期と就活への焦り

- 就職活動を終わりたい時期は、4割強が7月中。就職活動「焦っている」56.8%

5. 就職決定企業の属性

- 就職決定企業の従業員規模は、1,000人以上の大手企業が約7割(68.5%)を占める
- 就職決定業界は、文系は「銀行」「情報処理」「保険」、理系は「情報処理」「電子・電機」「医薬品・化粧品」の順

6. 就職決定企業に興味を持ち始めた時期

- 2月以前の合計が6割強(61.6%)。前年より早まった

7. 就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング

- 「インターンシップ参加時」が前年より増加(16.3%→19.5%)

8. ここまでの就職活動を振り返って

- 「業界研究や企業研究に十分な時間をとれた」は50.9%で前年(43.8%)を上回る
- 「企業を絞り込んで効率的に選考を受けることができた」59.8%

9. 後輩にアドバイスしたい「就活解禁前にやっておくべきこと」

- 「自己分析」(68.8%)が最多。「インターンシップ」(64.8%)は前年より4.9ポイント増

調査概要

調査対象 : 2018年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数 : 1,238人(文系男子413人、文系女子344人、理系男子313人、理系女子168人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2017年7月1日~5日
サンプリング : キャリタス就活2018学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

1. 7月1日現在の内定状況

7月1日現在の学生モニターの内定率は83.2%。先月調査(6月1日現在)の63.4%から1カ月で19.8ポイント伸び、8割を超えた。7月の内定率が8割を超えるのは、2009年卒者(82.6%)以来、9年ぶり。人手不足が深刻さを増す中で、就職環境はリーマン・ショック前の水準に戻ったと言える。当時の選考解禁は今より2カ月早い4月1日。この間、採用の日程ルールは幾度か変更されたが、結局は夏を前に就職戦線は一段落するという構図に落ち着いたように見て取れる。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは74.2%。6月調査では40.2%だったので、この1カ月で大きく増えた。

モニター全体を分母にとると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は61.7%。複数内定を保留しているなど未決定である者(4.4%)を合わせると66.1%となる。前年同期(61.9%)より4.2ポイント多い。活動継続者は「内定あり」(17.0%)、「内定なし」(16.8%)を合わせて33.8%。3人に1人が就職活動を継続しているという状況だ。

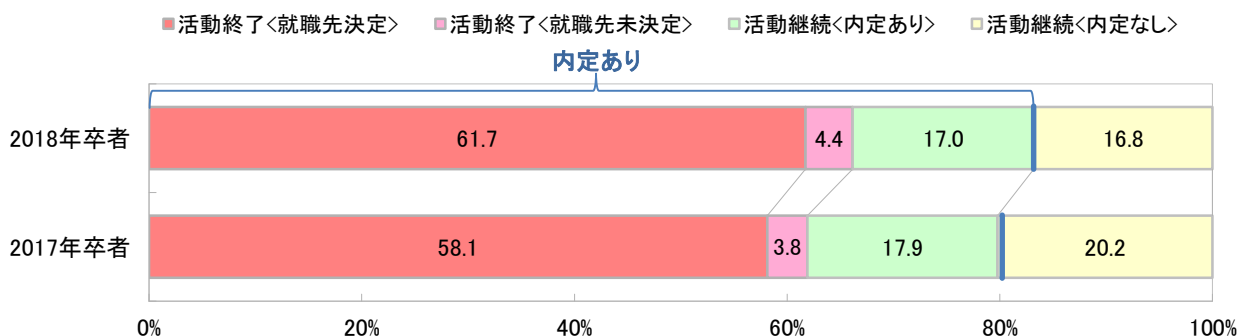
7月1日現在の内定状況 *「内定」には、内々定を含む (%)

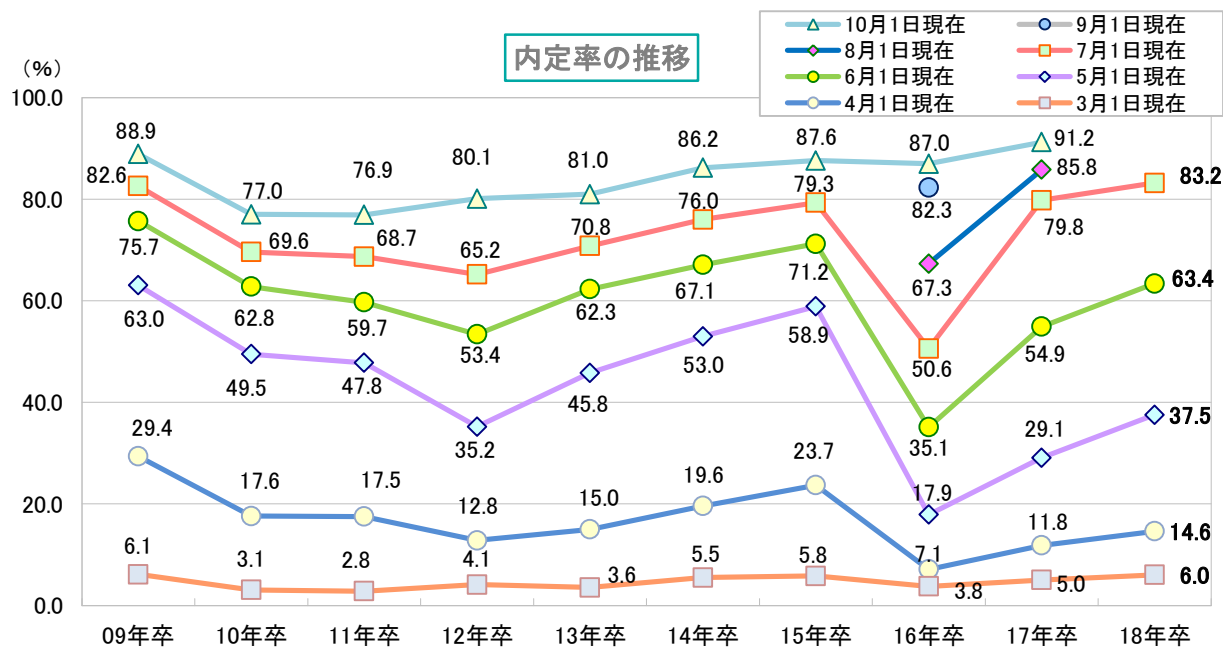
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		83.2 (79.8)	78.7 (74.1)	84.3 (82.3)	83.7 (84.8)	91.1 (78.1)
内定なし		16.8 (20.2)	21.3 (25.9)	15.7 (17.7)	16.3 (15.2)	8.9 (21.9)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	74.2 (72.9)	69.2 (67.5)	70.0 (74.6)	81.3 (78.4)	80.4 (69.4)
	活動は終了したが複数内定保持	5.0 (4.3)	5.5 (5.4)	6.2 (3.3)	3.4 (5.2)	3.9 (2.5)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.4 (0.4)	0.3 (0.0)	0.3 (0.3)	0.8 (1.1)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	20.5 (22.4)	24.9 (27.1)	23.4 (21.8)	14.5 (15.3)	15.7 (28.1)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.2 (2.2)	2.3 (2.3)	2.2 (2.1)	2.2 (2.0)	2.1 (2.4)

※ () 内は前年(7月1日現在)の数値

学生モニター全体の活動状況





※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17卒・18卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

2. エントリー状況、セミナー参加、選考試験の受験状況

7月1日現在の就職活動量をまとめた。これまでの一人あたりのエントリー社数の平均は39.6社。6月(37.5社)から2.1社微増した。3月調査時点では前年同期を上回っていたものの、その後ペースダウンして前年より1.5割程度少ない水準で推移している。7月時点で前年(45.8社)を6.2社下回る。

企業単独セミナーへの参加社数(16.3社)とエントリーシートの提出社数(16.5社)も前年同期をやや下回っている。それに伴い、筆記試験や面接などの選考試験受験社数もそれぞれ減少した。選考試験受験社数は、5月までは前年同期を上回っていたが、6月以降は前年を下回っていることから、企業の選考タイミングが前倒しになっていたことがわかる。

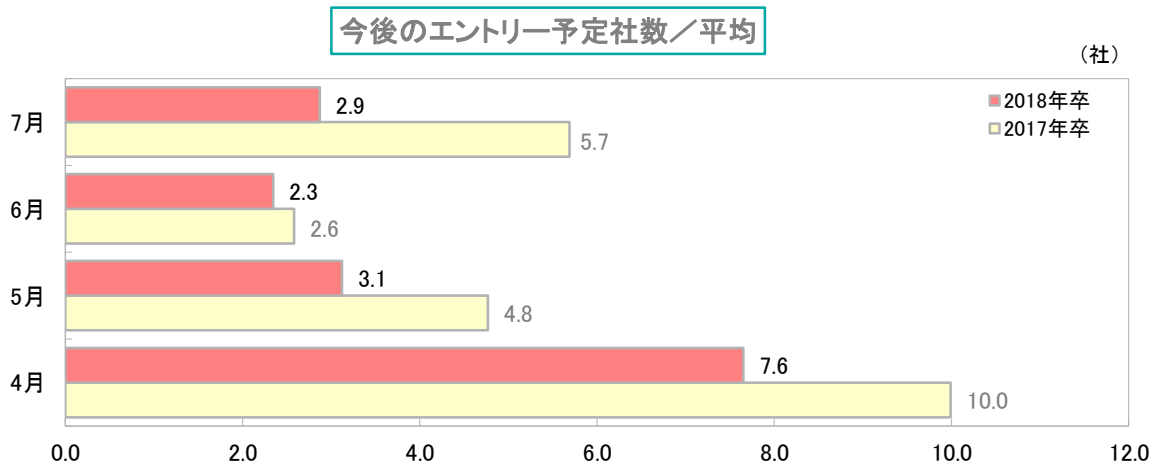
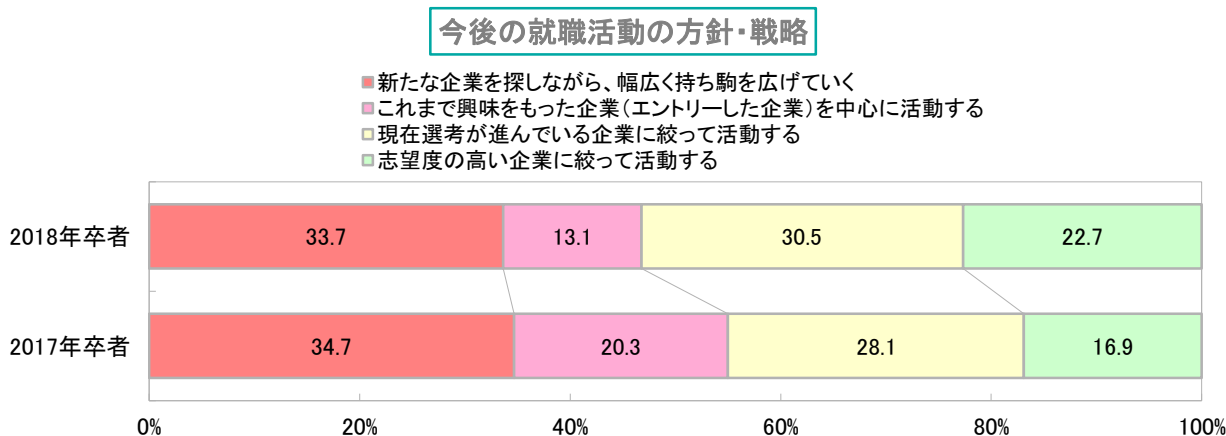
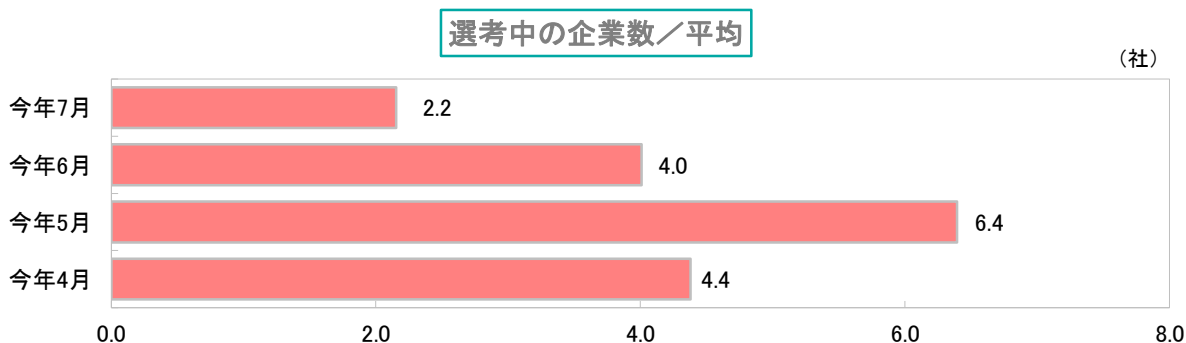
7月1日現在の就職活動の状況

	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー (社)	39.6	45.8	45.0	42.3	30.9	36.7
セミナー・説明会参加 (社)	37.8	41.6	42.5	42.2	29.6	32.3
企業単独開催のもの (社)	16.3	17.8	19.2	18.1	12.1	13.2
合同開催のもの (社)	12.3	12.9	14.0	14.4	8.6	10.3
学内開催のもの (社)	9.2	10.9	9.3	9.8	8.9	8.8
WEBセミナー視聴 (社)	5.7	5.7	5.7	6.1	5.3	5.6
ライブ中継 (社)	3.0	2.9	2.8	3.5	2.6	3.3
オンデマンド(録画) (社)	2.7	2.8	2.9	2.7	2.7	2.3
エントリーシート提出 (社)	16.5	17.5	19.1	17.1	12.9	15.6
選考試験の受験社数 (社)	23.8	25.7	27.8	24.3	19.8	20.5
筆記・WEB試験 (社)	11.3	12.6	13.1	11.6	9.4	9.7
グループディスカッション (社)	3.6	3.8	4.4	3.4	3.0	3.0
面接試験 (社)	8.9	9.3	10.3	9.3	7.3	7.8
うち、最終面接試験 (社)	2.8	-	3.0	2.8	2.6	2.7

3. 就活継続者の今後の動向

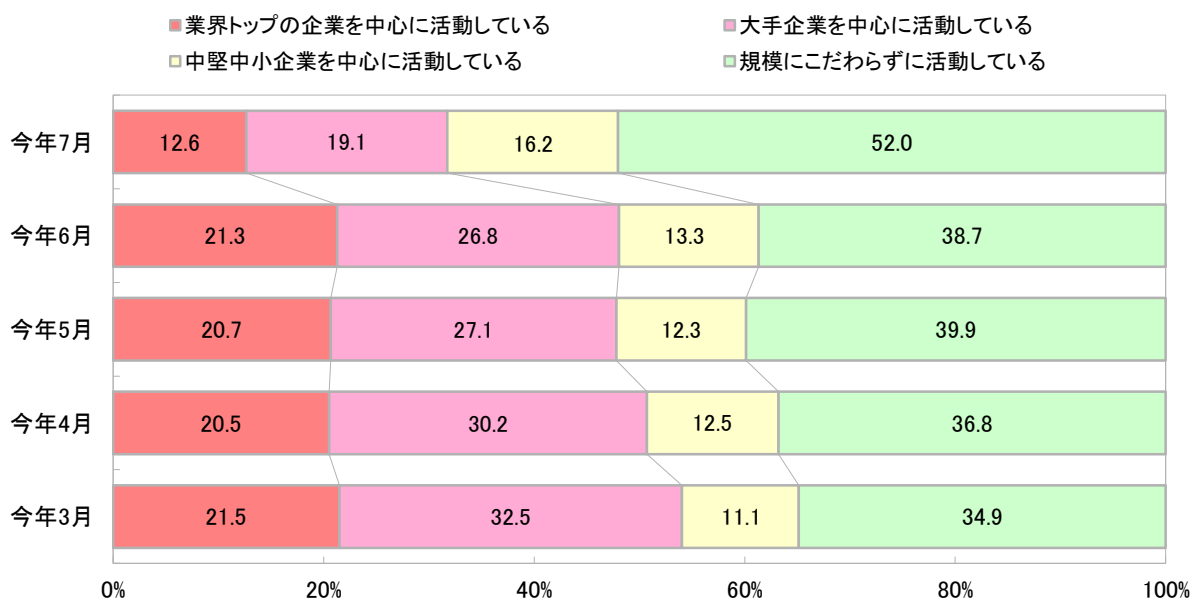
内定保持者も含め、7月1日時点で就職活動を継続している学生（モニター全体の33.8%）の、現在選考中の企業数は平均2.2社。いわゆる「持ち駒」企業が最も多かったのは5月調査で（6.4社）、その後は毎月減少している。

今後の方針・戦略を見ると、「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」が最多だが（33.7%）、前年同期（34.7%）よりやや減少。「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」「志望度の高い企業に絞って活動する」の割合が大きく増加している。今後のエントリー予定社数は、わずかに平均2.9社であることから、今ある持ち駒の中で、内定取得を目指す人が増えたことがわかる。売り手市場が広がっていると言われる就職戦線で、「なんとかなる」と見ている学生が多いのかもしれない。



就職活動の中心としている企業規模について、この5カ月の推移を見てみると、6月調査までは大きな変化はなかったが、7月調査では「業界トップの企業を中心に活動している」「大手企業を中心に活動している」といういわゆる大手狙いの学生が大きく減少し、「規模にこだわらない」が大きく増えた。大手企業の中には応募を締め切っているところも多く、中堅中小企業も視野に入れて活動しているだろう。

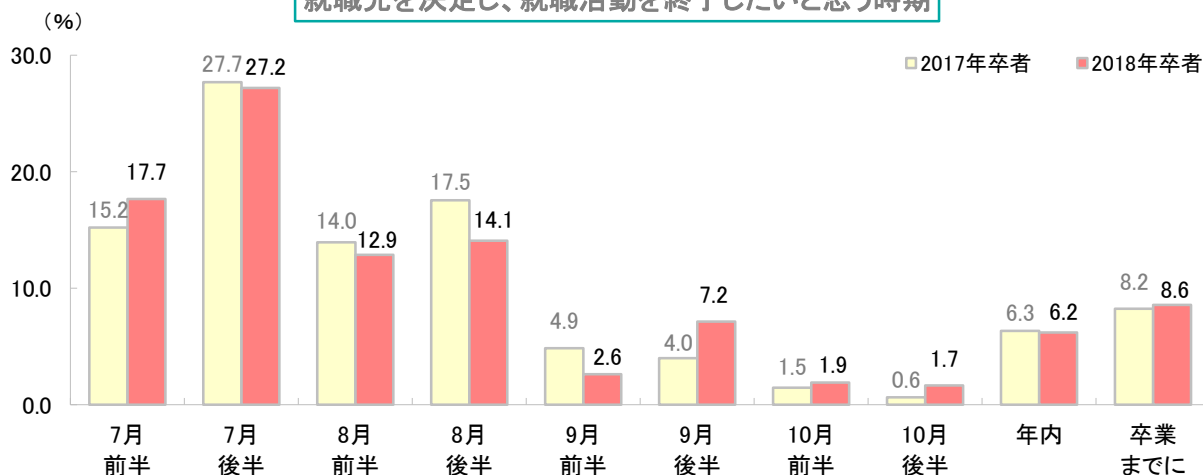
就職活動の中心としている企業規模



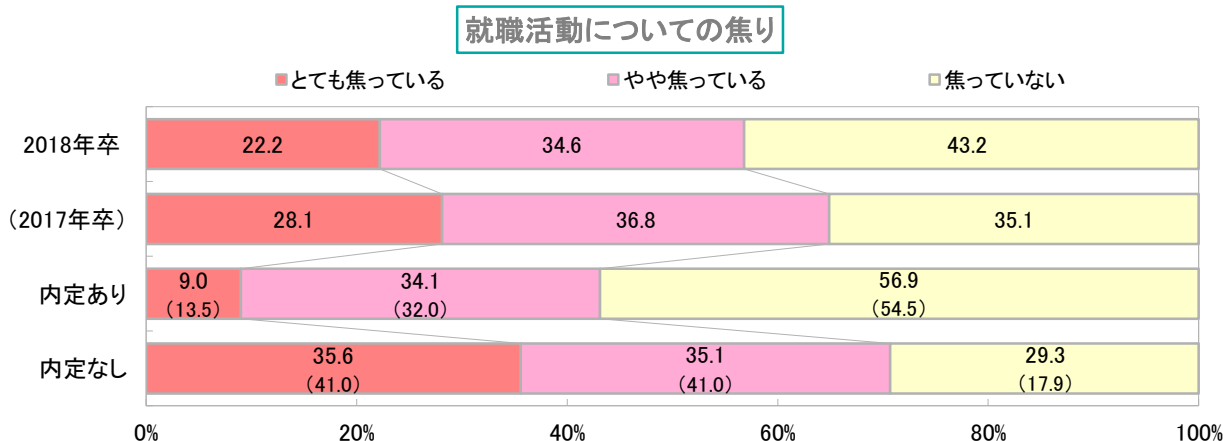
4. 就活継続者が就活を終了したいと思う時期と就活への焦り

就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期は、「7月後半」(27.2%)が最も多い。7月前半・後半の合計は4割強(44.9%)で、8月後半までを合わせると7割を超える(71.9%)。なるべく早く終わらせたいと考えている学生が大半だ。しかし、前年同期と比較すると、9月以降の割合が2.6ポイント増加しており、3割程度(28.2%)は秋以降も就活を継続することを想定している。長期戦を覚悟している学生も少なくない。

就職先を決定し、就職活動を終了したいと思う時期



現時点で、就職活動に焦りを感じているかどうか尋ねてみた。「とても焦っている」(22.2%)と「やや焦っている」(34.6%)を合わせると56.8%。過半数が焦りを感じているものの、前年同期(64.9%)よりは減少している。内定有無別で差が大きく、「内定あり」の学生で焦りを感じているのは4割程度(43.1%)なのに対し、「内定なし」の学生では7割を超える。ただし、「内定なし」で焦りを感じている学生は、前年同期(82.0%)より10ポイント以上減少している。



■ 苦戦していると感じる理由

- 他の人が内定をもらい、それに満足して就職活動を終えているのが目立つため。 <文系男子>
- まだ納得する企業から内定をもらえていないため。 <理系女子>

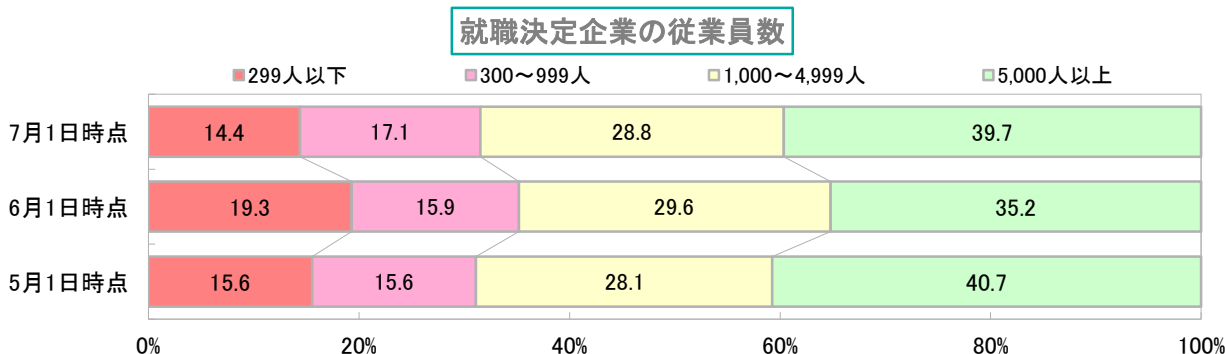
■ 順調に進んでいると感じる理由

- 内々定を得ているため、安心感を持ちながら就職活動を継続できているから。 <理系男子>
- 第一志望の枠に入れている企業の選考が無事進んでいるため。 <文系男子>

5. 就職決定企業の属性

ここからは、就職先を決定して就職活動を終了した学生(モニター全体の61.7%)のデータを見ていこう。まず、就職決定企業の従業員規模の比率について、この3カ月の推移を見てみた。5月1日時点では、従業員数が1,000人以上の大手企業が7割近くを占めていた(68.8%)。外資系企業やメガベンチャーなど、早期に内定を出す企業に就職を決めた学生が多かったためだ。

6月1日時点では大手企業の割合が減少し、中小企業の割合が増えた。大手に先んじて5月中に内定を出した中小企業に決めた学生が多かったことが表れている。その後7月1日時点では、大手が再び割合を増し、7割近くを占めた(68.5%)。6月に経団連加盟企業を中心とした大手企業から内定を得て就職先を決めた学生が多かったのだと考えられる。



次に、就職決定企業の業界を文系・理系ごとに見てみよう。

文系が就職を決定した業界は、1位が「銀行」(9.6%)で、2位「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」(7.7%)、3位「保険」(7.0%)と続く。「銀行」は前年も1位だったものの、割合が下がった(14.0%→9.6%)。例年同様、文系学生の志望業界の1位は「銀行」だったが、今年はメガバンクをはじめ、採用数を大きく減らしたことが影響しているのだろう。

理系は、前年同様「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」(11.3%)と「電子・電機」(11.3%)が同率で1位。次いで「医薬品・医療関連・化粧品」(10.1%)だった。上位の顔ぶれは、前年同期とほぼ変わらない。

文系

2017年卒		%	2018年卒		%
1位	銀行	14.0	1位	銀行	9.6
2位	保険	8.2	2位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	7.7
3位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	6.5	3位	保険	7.0
4位	調査・コンサルタント	5.4	4位	運輸・倉庫	6.3
5位	マスコミ	5.1		建設・住宅・不動産	6.3
	運輸・倉庫	5.1	6位	電子・電機	5.4
7位	建設・住宅・不動産	4.4	7位	調査・コンサルタント	5.1
8位	電子・電機	4.2	8位	情報・インターネットサービス	4.0
9位	情報・インターネットサービス	3.7	9位	自動車・輸送用機器	3.5
	信用金庫・労働金庫・信用組合	3.7		商社(専門)	3.5
11位	商社(専門)	3.0	11位	マスコミ	3.3
	証券・投信・投資顧問	3.0	12位	コンビニエンス・GMSストア	2.6
13位	ホテル・旅行	2.3	12位	鉄鋼・非鉄・金属製品	2.6
	自動車・輸送用機器	2.3	14位	証券・投信・投資顧問	2.3
15位	教育	2.1	15位	商社(総合)	2.1
	水産・食品	2.1		素材・化学	2.1
17位	エネルギー	1.9	17位	医薬品・医療関連・化粧品	1.9
	その他サービス	1.9		官公庁・団体	1.9
	医薬品・医療関連・化粧品	1.9		その他サービス	1.6
17位	官公庁・団体	1.9	19位	ホテル・旅行	1.6
	機械・プラントエンジニアリング	1.9	19位	人材紹介・人材派遣	1.6
	人材紹介・人材派遣	1.9			
	専門店	1.9			

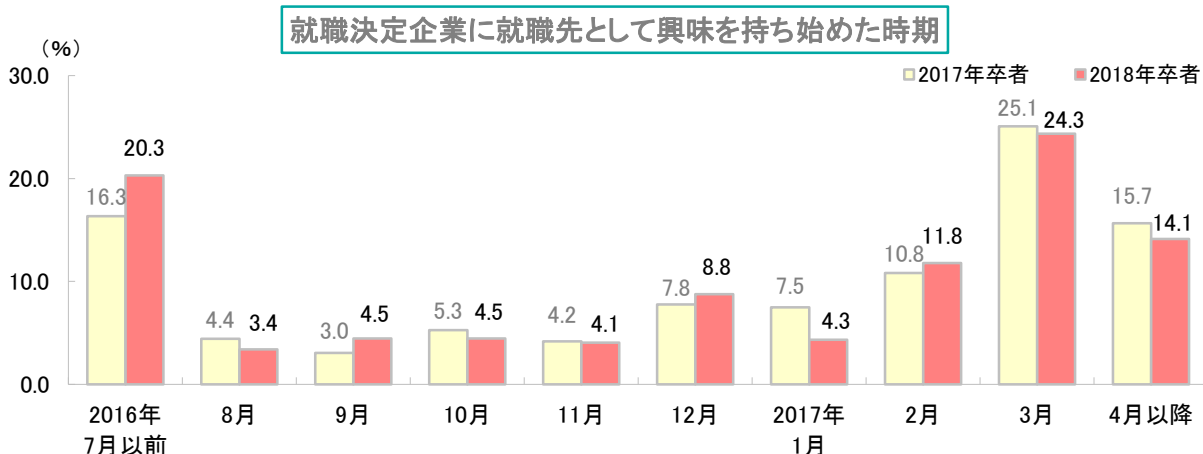
理系

2017年卒		%	2018年卒		%
1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.6	1位	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	11.3
2位	電子・電機	11.6		電子・電機	11.3
3位	自動車・輸送用機器	6.8	3位	医薬品・医療関連・化粧品	10.1
	素材・化学	6.8		自動車・輸送用機器	8.0
5位	医薬品・医療関連・化粧品	6.5	4位	素材・化学	8.0
6位	建設・住宅・不動産	6.1	6位	建設・住宅・不動産	6.3
7位	機械・プラントエンジニアリング	5.8	7位	水産・食品	5.1
8位	水産・食品	5.4	8位	機械・プラントエンジニアリング	4.8
9位	運輸・倉庫	5.1	9位	調査・コンサルタント	3.9
10位	エネルギー	3.7	10位	運輸・倉庫	3.3
	情報・インターネットサービス	3.7		精密機器・医療用機器	3.3
12位	銀行	2.7	12位	その他サービス	2.7
12位	通信関連	2.7		マスコミ	2.7
14位	鉄鋼・非鉄・金属製品	2.4	12位	情報・インターネットサービス	2.7
15位	官公庁・団体	2.0		鉄鋼・非鉄・金属製品	2.7
16位	調査・コンサルタント	1.7	16位	エネルギー	1.8
	保険	1.7		銀行	1.8
	その他サービス	1.4	18位	保険	1.5
18位	教育	1.4	19位	通信関連	1.2
	精密機器・医療用機器	1.4	20位	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	0.9
	農業・林業・鉱業	1.4		専門店	0.9

※上位20業界を掲載

6. 就職決定企業に興味を持ち始めた時期

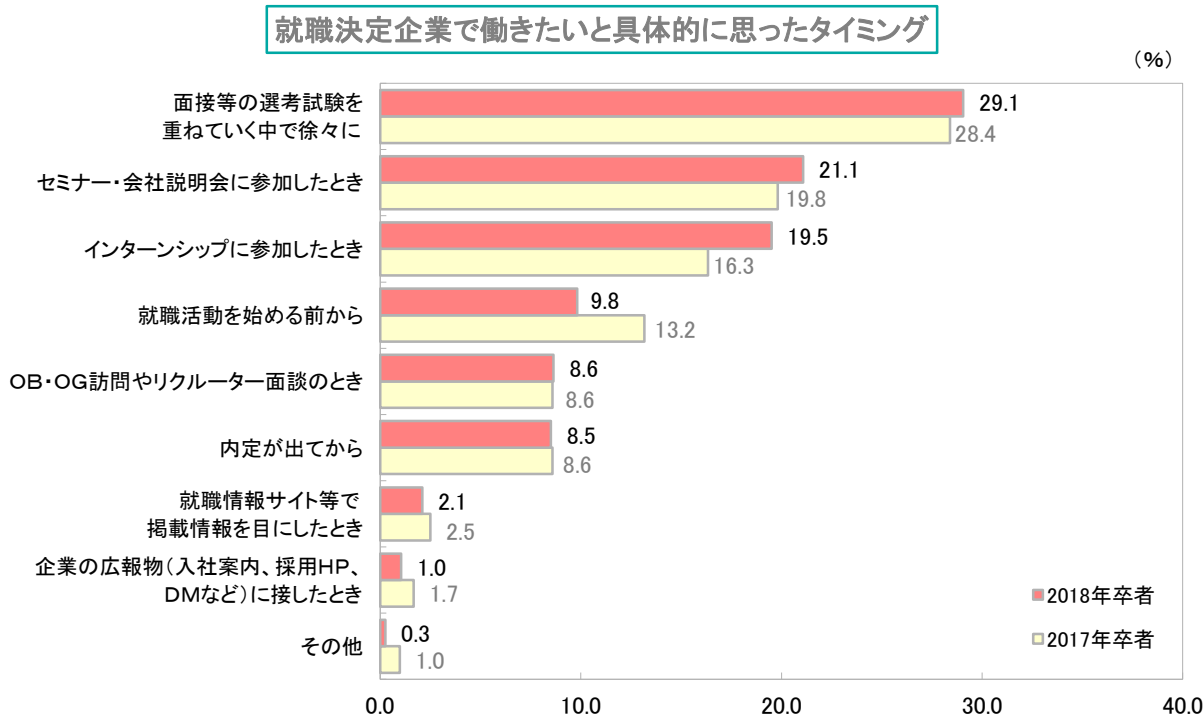
就職決定企業にいつ頃興味を持ち始めたのかを尋ね、前年のデータと比較してみた。最も多いのは前年同様「3 月」だが、割合は微減 (25.1%→24.3%)。早い時期の割合が増加しており、3 月の就職活動解禁より前に興味を持ち始めた人の合計は、6 割を超える (61.6%)。前年同期より 2.4 ポイント増加し、特に「7 月以前」(20.3%) が大きく増加しているのが目立つ。



7. 就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング

就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミングを尋ねた。

「インターンシップに参加したとき」が、前年の 16.3%から 19.5%へとポイントを伸ばしている。5 人に 1 人がインターンシップ参加時から就職決定企業で具体的に働くことをイメージしていたことがわかる。これは、「セミナー・会社説明会に参加したとき」(21.1%) と並ぶ数値であり、学生が志望企業を定める際にインターンシップが与える影響力の高まりが顕著に表れている。



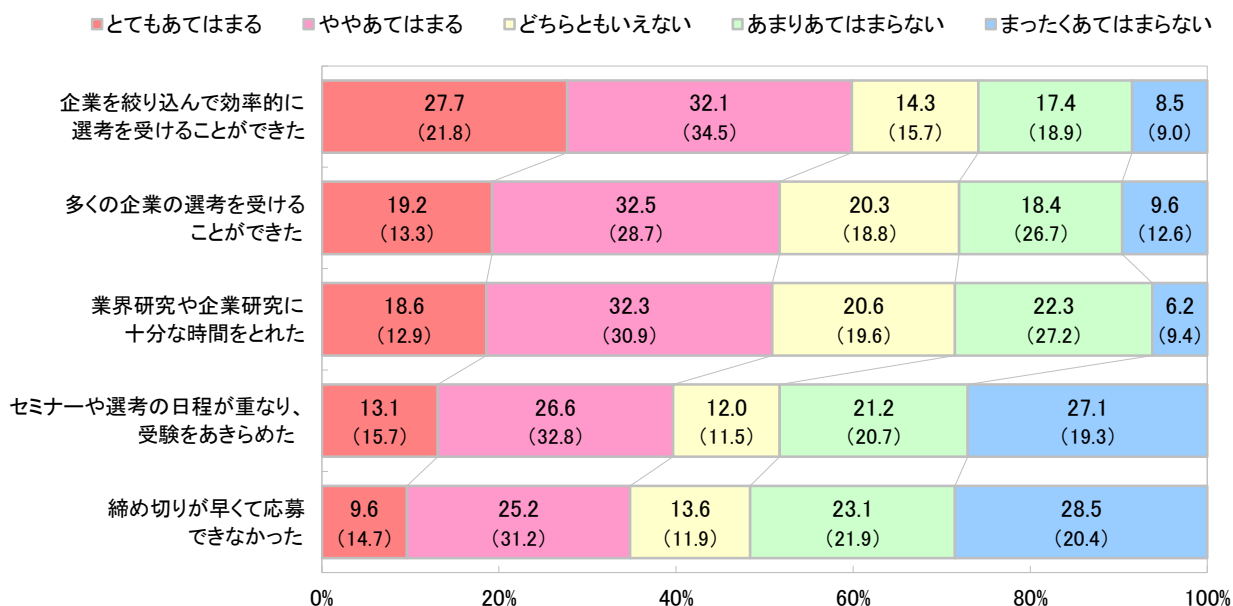
8. ここまでの就職活動を振り返って

ここまでの就職活動を振り返ってもらった。

新卒採用の日程ルールは前年と変わらないが、今年は企業が選考時期を前倒す傾向が見られた。ところが、「業界研究に十分な時間をとれた」という学生は過半数 (50.9%) に上り、前年 (43.8%) を上回っている。また、「企業を絞り込んで効率的に選考を受けることができた」という学生は 6 割近い (59.8%)。インターンシップに参加するなど早期から就活準備を進める学生が多いことから、事前に志望企業を絞り込んで戦略的に就活に臨んだ者も少なくなかったと推測できる。

「締め切りが早くて応募できなかった」「セミナーや選考の日程が重なり、受験をあきらめた」という学生はどちらも 3 割台で前年を下回った。就活期間短縮の弊害は改善が見られる。3 ページで見たように、エントリー社数や選考受験社数は前年より減ったが、「多くの企業の選考を受けることができた」という項目にあてはまると回答した学生は過半数に上り (51.7%)、あてはまらない (28.0%) を大きく上回っている。

ここまでの就職活動を振り返って



■就職活動を振り返って思うこと

- しっかりと業界研究ができていたおかげで効率的に選考に挑めた。 <文系男子>
- 就職活動を早くに始めて、9 月頃から企業の人事と面接することができていた。自己分析や面接練習、企業研究を早めに行ったことで、早くに行きたい企業を見つけることができた。 <文系男子>
- 昨年の夏から様々な業界、企業のインターンシップに参加し、自分に合う業界や企業を見つけることができた。結果、自信を持ってエントリーする企業を絞り込むことができたので、4 月下旬以降はスケジュールに余裕もあり、授業との両立も容易だった。 <文系女子>
- 3 月の頭に企業にエントリーする前に、どれだけ企業の情報を収集した上で、就職活動の戦略を講じられるかが非常に肝要である。 <理系男子>
- 短期決戦と言われているものの、私は夏から活動していたため、就職活動が非常に長く感じた。しかし準備に多くの時間を割くことができたため、満足のいく活動ができたと自負している。 <文系女子>

9. 後輩にアドバイスしたい「就活解禁前にやっておくべきこと」

ここまでの就職活動経験を通して、後輩に 3 月の就職活動解禁前（プレ期）にやっておくべきだとアドバイスしたいことを尋ねてみた。

前年調査と比べ全体的にポイントが増えており、早い時期から様々な準備しておくことが必要だと考える学生が多い様子が見える。ポイントの伸びが大きいのは、「インターンシップへの参加」(59.9%→64.8%)、「業界研究」(46.3%→55.2%)、「筆記試験対策」(33.5%→39.7%)、「面接試験対策」(22.8%→29.4%)、「OB・OG に話を聞く」(21.4%→26.5%) など。

後輩にアドバイスしたい、3月の就職活動解禁前にやっておくべきこと

